令和３年度　生活・自立支援事業実施報告

国立沖縄青少年交流の家

１　教育事業名　　「のびのび自然体験 in とかしき島」
２　ね　ら　い　　体験活動を通して、母と子との絆を深め、子供達のたくましい心と体を育むとともに、基本的な生活習慣、自立的行動習慣の確立につなげる。また母親については子供の自己肯定感を高めるための子供との接し方を学ぶ。
３　期　　日　　令和３年１０月３０日（土）～３１日（日）１泊２日
４　場　　所　　国立沖縄青少年交流の家
５　募 集 定 員　　沖縄県内の母子寡婦生活支援センター所属の親子 15 家族及び職員 50 名程度
６　参 加 人 数　　１１家族３１名
７　参加者内訳　　未就学児１名、小学生１３名、中学生５名、高校生１名　保護者１１名
８　講　　師　　ワークショップ（座談会）担当
・保里　恵利美　氏（ママの元気サポーター）
スノーケリング活動担当国立沖縄青少年交流の家
・森　有紀子　氏（ネイチャーワークス　NPO 海の自然史研究所）

９　実施プログラム

10　事業の様子

クラフト(貝殻フォトフレーム)

野外炊事（調理）

野外炊事（火の管理）

所内散策

海洋研修（大型カヌー）

海洋研修（ｽｰﾊﾟｰﾌﾛｰﾄ）

母と子でレクリエーション

メッセージカード作成（子供）

ワークショップ（母親）

11　エピソード（参加者の声、アンケートより）

【参加者の声】

①事業全体を通して

・普段の生活を忘れてリフレッシュすることができたので嬉しかった。

・スノーケリングや野外炊事等、子供と一緒に体験する活動がたくさんできて楽しかった。

②ワークショップ（母親対象）について

・他の親と知り合って話すことで、同じ悩みを抱えていることが分かり、互いに励みになった。

・子供の自尊心を育むには、まずお母さんの自尊心を高めるということに、すごく納得した。

③「メッセージカード作り」（子供達から母親へ）について

・ふだんは恥ずかしくて言葉にできないことを、文章に表すことができた。

・シールやイラストを描いて、工夫してカードを作成したので楽しかった。

④海洋研修について

・大型カヌーは、ほかの家族と力を合わせて漕ぐことができて楽しかった。

・スノーケリングでサンゴや魚を観察することができて嬉しかった。子供の相手をしてくださりありがとうございました。

・普段、子供を海につれていく機会がなく、喜んでいる姿が見られてよかった。

⑤野外炊事について

・薪で火を炊くのが難しかったけれど、できたときは達成感があった。

・薪や大鍋でのカレー作りは親子共々いい体験になった。

・子どもたちが自主的に活動している姿に感動した。

⑥クラフト作成について

・自分たちで集めた貝殻でフォトフレームが作れてよかった。

・前日に海で撮った写真が飾れるのは嬉しい。素敵な思い出を残せる。

・子供たちの想像力が生かされてよかった。

12　担当者所見

（1）　成果

今回の事業では、事業全体についての感想で、全ての母親が満足群というアンケートの結果が得られた。ねらいの「母と子の絆を深める」、「たくましい心と体を育む」、「基本的な生活習慣、自立的行動習慣の確立につなげる」、「子供の自己肯定感向上に向けてどのように子供と接すればいいのかを学ぶ」については、親子で楽しく自然体験活動や野外炊事、クラフト作りに取り組む様子やワークショップでの母親同士の交流などから十分に達成できたと考える。また、子供達が終始笑顔で活動している様子から渡嘉敷島の素晴らしい自然を満喫し、母親の愛情を体いっぱいに感じながら楽しくのびのびと過ごせたのではないかと考える。

（2）課題

・スケジュールに余裕をもたせ、参加者がゆったりとした雰囲気の中で交流を深めることができるよう、プログラムの精選と実施方法を工夫する必要がある。

・親子に安心して活動に参加してもらい、より満足度の高いプログラムを実施する為にも、ボランティアの数を多めに確保する必要がある。